

道徳の時間学習指導案

神石高原町立豊松小学校
指導教諭 松葉 伸恵

- 1 日 時 平成 28 年 6 月 13 日 (月) 3 校時 (10 : 40～11 : 25)
- 2 学 年 神石高原町立豊松小学校 第 6 学年 8 名
- 3 主題名 責任ある行動 【 1－(3) 自由・自律 】 関連価値 3－(1) 生命尊重
- 4 ねらい 頂上に登るか、下山するか自由に決めることができる状況の中で、下山することを決めた主人公の思いを考えるを通して、自由には責任が伴うことに気付き、自律的な行動をとろうとする態度を養う。
- 5 資料名 「頂上はすぐそこに」 (文溪堂)

6 主題設定の理由

- 学習指導要領高学年の指導内容 1－(3) は、「自由を大切にし、自律的で責任のある行動をする。」とある。人はだれでも、他人から指図されたり、束縛されたりせずに、自由に考えたり行動したりしたいという思いをもっている。それが自己を高めていく原動力になることもある。しかし、人は集団の中で生活しているのだから、一人一人が勝手な行動をしていたのでは社会生活は成り立たない。他人を思いやる気持ちや、良心に従うけじめや規律が必要となってくる。つまり、自由とはわがままや自分勝手ではなく、自分を律することのできる意志や責任を伴うものである。

そこで、最高学年として活動していく上で、周りの人のことも考え、自由に伴う自律性や責任を大切にしながら主体的に行動できる児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

- 本学級の児童は、最高学年として、全校のことを考えながら行動しようと頑張っているが、時にわがままな行動を取って、まわりに迷惑をかけてしまうこともある。アンケートでは、次のような結果となった。

調査人数 8 人 (5 月 13 日調べ)

○「自由」とはどういうことだと思いますか。				
・自分の好きなことをできる。 ・何でもできる。				
・したいことができる。 ・自分だけの時間				
・ゲームなどがいくらでもできる。 ・一人で勝手にできる。				
○何か行動を起こすとき、その結果について考えることができる。	とてもそう	だいたいそう	あまりでない	全くでない
	1 人	6 人	1 人	0 人
○人の立場や思いを考えて行動することができる。	0 人	8 人	0 人	0 人
○自分は責任感が強い方だと思う。	2 人	4 人	1 人	1 人
○どうしてもやりたいことを我慢することができる。	2 人	2 人	4 人	0 人

このアンケートの結果から、多くの児童が、何か行動を起こすとき、その結果や人の気持ちを考えている、自分は責任感が強いという思いをもっているが、「だいたいそう」と答える児童が多く、自信のなさがかがえる。また、やりたいことを我慢できないと答える児童が半数であることから、まだ自分の思い優先で、自分を律することができない児童がいることが分かる。

これらのことから、具体的な場面の中で、自分の行動が周りにどんな影響を与えるか、その行動に責任が

とれるかについてじっくり考えさせることが必要であると考えられる。

- この資料は、登山仲間から難しいと忠告された単独登頂に1週間の予定で挑戦したが、頂上の手前で霧のためとどまり、6日目の朝にやっと晴れた。単独登頂なので、登るか下山するか自由に決めることができる状況の中で、安全な登山にはまだ十分ではなかったために周りの人への影響を考え、悩んだ末に下山を決意するという内容である。

自由であるために、自分を律することの大切さについて考えることのできる資料である。

- 指導に当たって、導入では、「自由」についての今の児童の価値観を出させ、「本当の自由とはどんなものか考えよう」という課題を提示して本時で扱う道徳的価値について課題意識をもたせる。

展開前段では、登頂を成功させたいという強い思いから自由に行動できる単独登頂を選んだことをおさえ、主人公の気持ちに共感させる。

次に、危険を感じながらも登頂するか、それとも下山するかについて自分の思いや理由をワークシートに書いて考えさせ、ネームプレートを使って意思表示をさせる。そして、どうすべきかを議論させる中で、周りの人や仲間に迷惑をかけてはいけないといった意見を取り上げながら、本当の自由とは何か、自律的で責任ある行動の大切さについて考えを深めさせる。このとき、友だちの意見を聞いて、自分の考えが変わったという児童や、友だちの考え方も理解できるという児童の意見を発表させ、友だち同士の学び合いを大切にしたい。

そして、展開後段では、「本当の自由」とはどんなものであるか再び考えさせてまとめをし、導入時での「自由」と比べることで、価値観に係る変容を自覚させたい。

さらに、児童の日常生活の行動を振り返り、結果や周りの状況を考えて自分をコントロールしたこと、逆にできなかったことを出し合い、今後どうすべきかを考えさせることで本時のねらいに迫っていきたい。

7 準備物 場面絵、ワークシート、私たちの道徳

8 指導過程

段階	学習活動	主な発問（○○）と児童の心の動き（・）	○指導上の留意点 （★評価の観点）
導入	○自由についてのイメージを出し合い、課題意識をもつ。	○自由という言葉からどんなことを考えますか。 ・自分の好きなようにできる。 ・だれからも指図されない。 本当の自由とはどういうものか考えよう。	○自由についての考えを出し合うことで道徳的価値への関心をもたせる。
	○資料の前半を読む。 ○危険が多いのに、私はなぜ単独登山を実行したのか考える。	○私はなぜ単独登山を決め、実行したのでしょうか。 ・一人だから自分の力が出し切れるから。 ・絶対成功してみせる自信があったから。 ・いっしょにいる人のために自分のやりたいことをあきらめたくない。	○美しい山の写真を提示し、山に憧れる気持ちの理解を促す。 ○自由に行動したいから単独登山を選んだ気持ちに共感させる。

展 開	○動けないで待機しているときの私の気持ちを考える。	○頂上の手前で霧のため動けないでいた私はどんなことを考えたでしょう。 ・早く晴れて欲しい。登頂したい。 ・無理をすると遭難する。我慢だ。 ・予定の1週間を過ぎると捜索隊が出る。仲間も心配しているだろう。 ・まだ体力もある。大丈夫だ。	○どうしても単独登頂したい気持ちと遭難したら迷惑がかかることを気にする気持ちをおさえる。
	○6日目、少し見えた頂上を前に、どうすべきかを考え、交流する。	◎6日目の朝、登頂すべきか下山すべきか、それはなぜか意見を出し合いましょう。 ・登頂する。今まで待ったのだから。成功させて仲間に知らせたい。無理をしても挑戦するために一人で来たのだから。 ・下山する。もしも何かあったら、みんなに心配や迷惑をかける。自分勝手に無茶な登頂はいけない。チャンスはまたある。 	○自分の考えをワークシートに書き、ネームプレートで立場を示して議論する。 ○それぞれの意見にゆさぶりをかけながら、自分の行動が周りの人へ与える影響について考えさせる。
	○資料の後半を読む。 ○「もう二度と振り返ることはなかった。」私の気持ちを考える。	○「もう二度と振り返ることはなかった」私は、下山しながら何を考えたでしょう。 ・下山すると決めたから、もう心残りはない。 ・自分勝手なことをして、みんなに心配をかけてはいけない。	★自由に伴う責任や自律に気付くことができる。
	○本時のまとめをする。	○本当の自由とは、どんなものですか。 本当の自由とは、人に迷惑をかけないか考えて決めること。やりたいことも、周りに迷惑がかかるようならしてはいけない。	○自分で納得して選んでいることに気付かせる。
終 末	○自分の生活を振り返る。	○主人公のように結果や周りの状況を考えて、自分をコントロールできたことやできなかったことはありますか。 ・片付けが終わっていないのに、休憩になったからそのままにして遊んでしまった。 ・6年生の休憩時間がずれたとき、静かにできる遊びを選んだ。	○これまでの具体的な場面を取りあげて考えさせる。 ★自分の生活の中で、自由を生かす自律的で責任ある行動について考えることができる。
	○「私たちの道徳」P31を読み、本当の自由について考えたことを書く。	○「私たちの道徳」P31を読み、「自由だからこそ気を付けなければならないこと」を書きましょう。	

9 板書計画

